

# 「田んぼダム」を推進します！

## 「田んぼダム」とは

- 田んぼの「雨を貯める機能」をより一層活用する取組です。
- 大雨の際、一時的に田んぼに水を貯め、ゆっくりと排水します。
- 営農に影響を与えない範囲で実施する取組です。

## 「田んぼダム」が必要なわけ

- 地球温暖化で水害の激甚化・頻発化が懸念されています。
- 岐阜県でも1時間降水量50mm以上（滝のように降る雨）の発生回数が30年前に比べ約1.4倍になっています。
- 河川改修だけでは激しさを増す水害に対応できないケースが出てきています。
- このため、流域のあらゆる関係者が協力して豪雨による被害を最小限に抑える取組「流域治水」が必要となっています。
- この「流域治水」の取組の一つとして「田んぼダム」の取組が全国で広がっています。

### 流域治水の取組



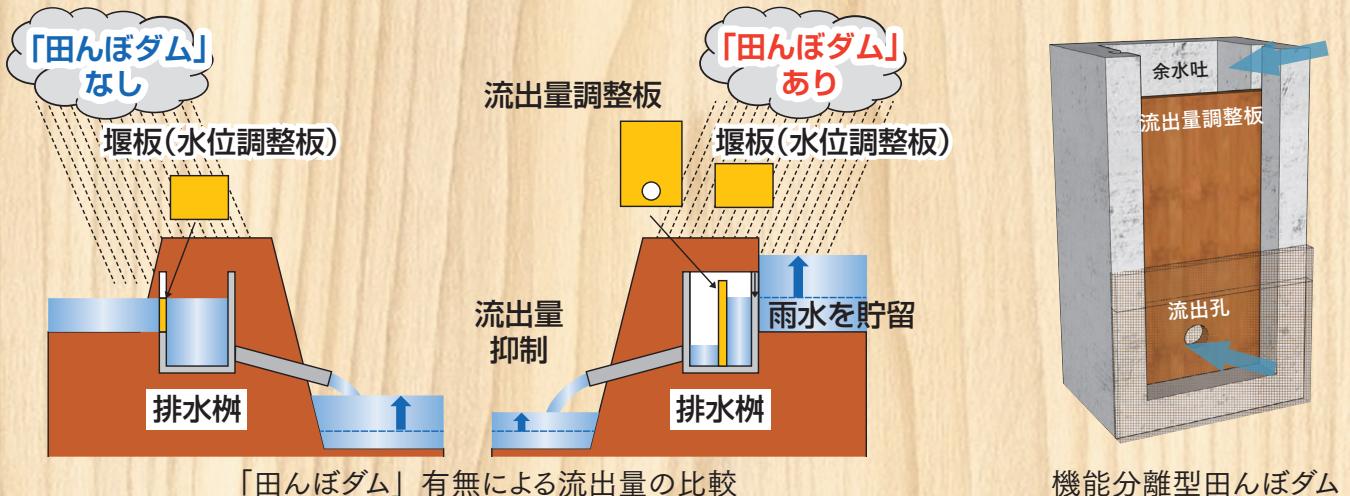
### 「田んぼダム」の取組



「田んぼダム」有無による排水状況の違い  
(関市小野地区)

# 「田んぼダム」のしくみ

- 田んぼの排水口に排水量を制限する器具を取り付けることで、大雨時の田んぼからの排水を抑制します。
- 雨水を一時的に田んぼに貯めることで、地区の排水路や河川へ一気に排水されることを抑えることができます。
- 「田んぼダム」には余水吐け機能があるため、豪雨時に畦畔から越流することを防ぐことができます。



## 田んぼダムの取組の留意点

- 安全に貯水するため、畦畔高が30cm程度とすることが望ましいです。
- 基本的に「流出量調整板」は入れたままにしておきます。
- ゴミ詰まりが起きやすい時期があります。（荒起し後の入水時、草刈り後、大雨の後など）
- 実証試験では収量・品質への影響は確認されませんでした。
- 「田んぼダム」はあくまでも「営農優先」の取組です。